

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第二主日礼拝のしおり

2022年6月19日

前奏

招きのことば：詩編 22 編 23-28 節

わたしは兄弟たちに御名を語り伝え 集会の中であなたを賛美します。主を畏れる人々よ、主を賛美せよ。ヤコブの子孫は皆、主に栄光を帰せよ。

イスラエルの子孫は皆、主を恐れよ。主は貧しい人の苦しみを 決して侮らず、さげすまれません。御顔を隠すことなく 助けを求める叫びを聞いてくださいます。

それゆえ、わたしは大いなる集会で あなたに賛美をささげ 神を畏れる人々の前で満願の献げ物をささげます。貧しい人は食べて満ち足り 主を尋ね求める人は主を賛美します。

いつまでも健やかな命が与えられますように。地の果てまで すべての人が主を認め、御もとに立ち帰り 国々の民が御前にひれ伏しますように。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて一週間を始めます。

あなたは私たちの絶望を希望に変えてくださいました。私たちを苦しめ、私たちを縛って不自由にする、様々な力から助け出してくださいました。罪の力、死の恐れ、悪魔の策略から、イエス様によって救い出されて、今私たちはイエス様の方に向きを変えて歩み、イエス様のしてくださったことを喜びをもって言い広めて歩んでいます。どうか、私たちの大切な方々がイエス様とお出会いすることができますように、導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ガラテヤの信徒への手紙 3章 23-29節

信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。しかし、信仰が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

福音書朗読：ルカによる福音書 8章 26-39節

一行は、ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。イエスが陸に上がられると、この町の者で、悪霊に取りつかれている男がやって来た。この男は長い間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まいとしていた。イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい。」イエスが、汚れた霊に男から出るように命じられたからである。この人は何回も汚れた霊に取りつかれたので、鎖でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒野野へと駆り立てられていた。イエスが、「名は何か」とお尋ねになると、「レギ

オン」と言った。たくさんの悪霊がこの男に入っていたからである。そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。ところで、その辺りの山で、たくさんの豚の群れがえさをあさっていた。悪霊どもが豚の中に入る許しを願うと、イエスはお許しになった。悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ。この出来事を見た豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。そこで、人々はその出来事を見ようとしてやって来た。彼らはイエスのところに来ると、悪霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っているのを見て、恐ろしくなった。成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。悪霊どもを追い出してもらった人が、お供したいとしきりに願ったが、イエスはこう言うとお帰しになった。「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとく町中に言い広めた。

讚美歌 310 番

- 1 静けき 祈りのときはいと楽し 悩みある世より 我を呼び出だし
父のおお前に すべての求めを たずさえ至りて つぶさに告げしむ
- 2 静けき 祈りのときはいと楽し さまよい出でたる 我がたまを 救い
あやうき道より ともない帰りて 試むるものの 畏を逃れしむ
3. 静けき 祈りのときはいと楽し そびゆるピスガの 山の高嶺より
ふるさと眺めて 登り行く日まで 慰めを与え 喜びを満たす **アーメン**

説教：「神様があなたになさったこと」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

本日は聖霊降臨後第二主日の礼拝です。クリスマスの四週間前から始まる教会の暦の、一年の前半の半分はイエス様のなされたこと、イエス様の生涯をたどります。そして、先週から始まりました一年の後半には、聖霊降臨後主日としてイエス様の教えられたことをたどります。

今日はルカによる福音書から、イエス様が救い主として悪霊を追い出された個所が開かれました。イエス様にはたいへん権威があるのですね。イエス様は病気の人をいつくしんで病いを癒したり、イエス様に信頼する人々の祈りを聞いて大切な人々を死から命に移してくださいました。そのようにしてイエス様が神様の働きをして神の国をここで実現してくださっていることを教えています。ですから私たちも、罪の赦されるために、悔い改めてこのイエス様に向き直

りましょう。悪霊に打ち勝ったり、病気をいやしたりする力は、このあとの9章を読むと、十二人のお弟子たちにも与えられています。イエス様は彼らを村から村へと行きめぐって、その力をもって神の国を宣べ伝えるようにおつかわしになりました。私たちもイエス様のなさったことを自分の口から人々にお伝えしていきましょう。

それにしても激しい悪霊の力の犠牲になってきた人が登場します。それはイエス様がお弟子たちと一緒に舟で湖の反対側の岸に旅をした時のことでした。ゲラサ人の地方ということでしたが、イスラエルの人ではない異国人が住んでいました。お弟子たちは、イエス様がどうしてわざわざこの地方に行こうとおっしゃったのか、イエス様のお考えを計りかねていました。するとどうでしょう。少し変わった人が叫びながら近づいてくるではありませんか。もう長い間、町の人から離れた墓場に住んでいて、人間らしさを失って服を着ないで過ごしているような人でした。聖書には、これまでこの人が町で暴れて手が付けられなかったことが記されています。この人が汚れた霊に取りつかれるたびに足枷をはめて鎖でつなぎ監視したのですが、そのたびにこの人は異常な力で引きちぎり、荒れ野や墓場に帰っていきました。

悪霊は墮落した天使のサタンに従って、私たち人間をだまして、神様から離れさせる霊です。救い主のイエス様の力は私たちをこの悪霊から解放し、神の国に導いてくださいます。イエス様は私たちを縛って不自由にしている罪の力、死の力、悪魔の力を打ち破るために神様から遣わされて、来てくださいました。イエス様はそのようにして神の国をもたらしってくださいます。

お弟子たちも、人々も、はじめはイエス様は偉い先生とっていました。また、聖書を新しい解釈で教えてくださるすばらしい預言者だと思っていました。確かにイエス様は知恵に富み、愛の豊かな立派な先生です。けれどもお弟子たちも人々も、はじめからイエス様が十字架で死んでくださって救いを完成してくださるお方と信じていたかどうかは疑問です。

彼らの無知や不信仰にもかかわらず、イエス様は十字架で死んでくださることで、罪の力にとらえられている私たちを赦してくださいました。イエス様は死んだ人たちをよみがえらせてくださいましたが、イエス様ご自身も三日目によみがえってくださって私たちを絶望させる死の力を打ち破ってくださいました。さらに、サタンがイエス様のお弟子のひとりのユダを裏切り者にして、自分たちに都合の悪いイエス様を亡き者にしようとしたのですが、イエス様はその死によってサタンの力を受けつくしたうえで三日目によみがえってくださり、全力を出し切ったサタンの力を根こそぎ滅ぼしてくださったのです。

ですからお弟子たちは聖霊によってイエス様が救い主であることを信じ、これまでは自分の考えであれこれ悩んでさまよっていましたが、しっかりイエス様の方を向いて、罪の赦しを得たのです。そしてイエス様のことをすべての国の人々に宣べ伝えていく豊かな生涯を送りました。

向こう岸のゲラサの地方で悪霊に取り憑かれて人々から排斥されていたこの人に会うために、イエス様はお弟子とともに舟で嵐を超えて訪ねて来てくださいました。イエス様はこの人を助

けようとして、はるばる来てくださったのです。悪霊はイエス様を恐れしました。イエス様は悪霊に命じて、この人から出るように言われました。悪霊に憑かれているこの人はひれ伏してイエス様をお願いしました。「神の子イエス様、私を放っておいてください、私を苦しめないでください、お願いだからイエス様、私をこの人から追い出さないでください」と頼みました。イエス様が悪霊に名前を尋ねるとレギオンと答えました。悪霊どもがたくさんこの人に入っていたのです。レギオンは当時のローマの軍隊の6000人規模の小隊の名前です。そんなにたくさんの悪霊たちでしたが、神様から遣わされたイエス様が来られたら苦しんで、自分たちを底知れないふちに行くようにと命じたらいやだ、と思い、必死で頼んでいます。悪霊たちは自分たちがこの人からでなければならぬのだったら行く場所がありません。ちょうど山肌に餌をあさる豚の群れがいるのを見つけました。それでイエス様に、私たちはこの人から出ますが、あの豚に入っているいいですか、とお願いして、おびたしい豚の群れにのり移り、崖から湖になだれ落ちていきました。その人にはそれほどたくさんの悪霊たちが入っていたのです。

その豚を飼っていた人たちは突然のことに驚いて町の人たちを呼んできました。イエス様のところに来るとそこにあの人が正気を取り戻してイエス様の足元にすわっているのが見えました。何が起こったかを見ていた人たちが、町から来た人たちにイエス様の権威とみわざをお話したのですが、とてつもない出来事に町の人たちは怖くなりました。そして、イエス様にここから出て行ってください、お帰りください、と願いました。

町を乱す変わり者が、向こう岸から来たイエス様によって悪霊を追い出していただいて正気になったのです。その一部始終を目撃していた人がイエス様の権威とみわざをお話したのです。けれども町の人たちはイエス様に帰ってください、と言いました。とても残念なことです。これまででも多くの場合イエス様のみわざを見た人たちはイエス様の方に向き直るのではなく、驚いて恐れるだけだったり、病気を治してもらったことは喜んで自分の生活に帰って行くだけでした。残念ですが多くの場合、せっかくイエス様とお会いしているのに、自分の生涯をイエス様の方に向きを変えて歩むことなく、自分が助かったら、ありがとうございます、ではお帰り下さい、と言ってイエス様とお別れをするのでした。悪霊にとりつかれていたときに、あの人がイエス様に、私を放っておいてください、私にかまわないでください、とひれ伏してお願いした姿とどこか重なります。

イエス様は権威を振りかざさず、力を用いずに、人々の要望を受け入れて、舟に乗って帰ろうとなさいました。そこに悪霊を追い出していただいた人が走り寄ります。この町からお帰りになるのでしたら私もお供させてください、と願います。悪霊に縛られていたときは正反対のお願いです。この人はイエス様に助けていただいて、イエス様にしっかりと向き直りました。そしてイエス様に従ってイエス様のお供をして生きていきたい、と願うようになったのです。

イエス様はどうなさったのでしょうか。私についてきたいのか、町の人たちは私に対して町を離れて帰ってほしいと願ったけれど、あなたも町の人と一緒に住みにくいだろう、いいだろう、

ついてくるのを許可しよう。そんな風に言ってくれたらこの人は喜んでイエス様と一緒に舟で故郷を離れたでしょう。

しかしイエス様は意外なことをおっしゃいました。この人に、町にある自分の家に帰るようにと言いました。そして、そこで神様があなたの身の上にしてくださったことを人々に話して聞かせるようにとお勧めになりました。この人は町に残りました。そして、この人は恐れでいっぱいだった町の人に、イエス様がしてくださったことを言い広めました。わざわざ向こう岸から私のために来てくださって、悪霊の束縛から私を解放して救ってくださいました、イエス様こそ救い主です、と宣べ伝え、言い広めていきました。

イエス様は私たちのために十字架にかかってくくださって、罪と死と悪魔の力から私たちを解放してくださいました。洗礼によって私たちはイエス様の死にあずかっています。それで神様から罪を赦されて、神の子とされ、罪の力の奴隷状態から自由にされています。死の力からも解放されました。イエス様が死んで死を滅ぼされました。私たちは三日目によみがえってくださったイエス様の命にあずかっています。死は私たちを絶望に陥れることはできません。よみがえりと永遠のいのちの希望に生かされているのです。また、悪魔の力からも自由にされています。イエス様は荒野で三度も迫ってきた悪魔の誘惑を、すべてみ言葉によって退けられて、わたしを試みてはならない、と命じられました。また悪霊を人々から追い出して、悪霊の支配が終わったことを示してくださいました。イエス様は私たちを悪霊の束縛から解放してくださいました。

神の国はあなたのところに来たのです。私たちは生まれつき自己中心ですから、ついイエス様の救いを忘れてしまいます。ですから私たちはイエス様のみ言葉によってイエス様の救いを何度も思い起こさせていただいて、毎日の生活を希望をもって送ることができます。イエス様の救いはあなたの生活のすべてを、絶望から希望に塗り替えてくださいます。自分の弱さや自信のなさを自覚したら、だからこそイエス様に信頼することができることを喜ぶのです。思いがけない試練に苦しむことになったら、このことを通してイエス様は私の信仰を鍛え育ててくださることを喜ぶのです。自分の愚かさで人を助けることができず申し訳ないことになっていても、イエス様がすべてをあい働かせて益としてくださることに信頼できるのです。何よりもあなたのわがままで自分中心な自分で変えられない罪を、イエス様は向こう岸から来て赦してくださいました。

私たちも今日、イエス様にお帰り下さい、と言うのではなく自分の向きをイエス様の方に向き変えて、イエス様を信頼しましょう。そうすればイエス様は私の属している生活の場に私たちを送りかえしてくださって、そこでイエス様がわたしにしてくださいましたことを語り伝える豊かな使命を与えて、私たちの毎日を祝福してくださいます。

「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになされたことを ことごとく話して聞かせなさい。」 ルカによる福音書 8章 39a 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 339 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて 恵みを賜え
※ わが日わが時わがもの皆は 今よりとわに 君のものなり
- 2 わが手は君(きみ)のみわざをならい われの歩みはみ跡をふみて
いそしみ進み 主の御力に 常にたよりにて 強からしめよ
- 3 われの舌をば 救いの主(ぬし)の 恵みを歌う 器(うつわ)となして
わが唇によき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ
- 4 黄金しろがね 知恵も力も 献げまつれば みな取り用い
我(われ)の心を 宝座(みくら)となして み旨(むね)のままに 治めたまえや アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏